

創立 70 周年

平成 29 年 10 月 3 日

立花中だより

強く 正しく 優しく

校長 尾知山光郎

汗をかいた夏 「天才とは 1%の直感と 99%の発汗である」

発明王と呼ばれたトーマス・エディソン氏が残した有名な言葉で、「発汗」は「努力」の比喻（ひゆ）、つまり、例えです。立花中の生徒と教職員が「一度しかない今年の夏」を充実させるために、一所懸命に取り組んだ活動のうちの一部を紹介します。

スポーツの夏 兵庫県中学校総合体育大会等

前号でお知らせしたとおり、陸上競技部の小松原裕斗（3年）、古田聡美（3年）、松本カリン（3年）、器械体操競技で、松岡航大（1年）と橋本雛子（1年）が県総体に出場しました。

兵庫県中学校学年別水泳競技大会兼新人大会に水泳部員 20 名が出場しました。

野球の市長旗争奪大会がありました。バスケットボールの Hitachi Cup で、男子が優勝しました。

勉強の夏 サマーチャレンジ

3 年生は 10 日間の、2 年生・1 年生は 3 日間の「サマーチャレンジ」で、宿題や受検に備えての学習に取り組みました。のべ 579 名の生徒が参加しました。

多くの生徒が「自由研究」に取り組みました。成果は 10 月のオープンスクール期間中の文化発表や市内中学校各教科研究会主催の作品展等で発表されますので、ご期待ください。

吹奏楽の夏 兵庫県東阪神地区コンクールで金賞！

兵庫県東阪神地区（尼崎市、伊丹市、川西市、猪名川町）吹奏楽コンクールが 7 月 29 日（土）に行われました。本校は、県大会出場の推薦を得られなかったものの、金賞を受賞しました。

あましんアルカイックホールで開かれた尼崎市吹奏楽連盟第 162 回定期演奏会や、塚口さんさんタウンで開かれた「夕やけコンサート・立花吹奏楽フェスティバル」で、立中サウンドを披露しました。

地域に貢献した夏 茶華道部の呈茶活動

茶華道部は、8 月 6 日に行われた第 38 回尼崎市技能フェスティバル（親子ものづくり体験教室等）において、大工職人と畳職人の方々がベイコム尼崎総合体育館サブアリーナ内に共同製作された茶室ブースで、呈茶サービスや茶道体験に協力し、参加者の皆さんに「立花中のお茶」を味わっていただきました。本校の茶華道部は、長きに渡り、丸谷先生のご指導を受け続けております。

高等学校等を調べ、体感した夏 オープンハイスクール等に多数参加

夏休み中に多くの高等学校等でオープンハイスクールや学校説明会が行われました。多数の 3 年生が参加し、卒業後の進学先を自分で調べて来ました。様々なことを感じ取ったはずです。

「トライやる・ウィーク」

2年生が9月11日～15日の一週間、地域の事業所にお世話になり、職場体験等の活動「トライやる・ウィーク」を行いました。学校ではできない体験ができ、25日に学年全体での報告発表会を行いました。

宿泊学習 @ハチ高原

1年生が9月14日～15日の2日間、ハチ高原（兵庫県養父市）での宿泊学習に行きました。鉢伏山登山、キャンドルサービス、飯盒炊さんという活動を中心に、誇りある立花中学生徒として成長しました。

新人大会が始まりました

女子ソフトテニス部 団体（学校対抗）戦で3位に入賞しました。個人戦で杉山朋乃佳（2年）・小野山七海（1年）組が20位以内に勝ち残り、団体とともに阪神大会に出場します。

野球部 小田中との1回戦で完封され、攻撃力を高める課題が明らかになりました。

陸上競技部 嘉勢悠夏（2年）共通男子400m2位、播磨和佳（2年）共通女子100mH2位、2年女子100m3位、高橋凌一郎（2年）共通男子200m3位、中田優希（2年）共通女子200m3位、南口海（1年）・榊谷佳生・嘉勢・高橋（2年）共通男子4×100mリレー3位

水泳部 溝口悠夏（1年）女子自由形50m2位・100m2位 亀田夏希（1年）自由形200m3位、溝口悠夏・亀田夏希・田中瑠菜（以上1年）・大野有未（2年）1・2年女子4×100mリレー3位、窪野翔太（2年）バタフライ100m3位

バスケットボール部 男子・女子ともに、3位入賞でした。阪神大会および県大会に出場します。

「学力向上アクションプラン」

学力状況を把握し、高めるための「学力向上アクションプラン」（学校の行動計画）を作成しています。学力状況は、各生徒で大きく異なり、集団の傾向としても、学年によって異なります。現3年生の学力等の傾向については、入学直後に受けた尼崎市学力・生活実態調査で、国語の平均得点率が全国標準に比べて低く、5段階評定1と2の割合が合わせて4割に上っていました。数学（算数）では、平均得点率は標準程度でしたが、5段階で1と2の合計割合が3割でした。つまり、多くの生徒が基本的な知識・技能を身に付けていないことが課題でした。同調査では「家の人に言われなくても自分からすすんで勉強する」「宿題以外の勉強もする」「決まった時間に勉強する」生徒が約半数に留まり、ゲーム・スマートフォン・テレビ等の長時間利用が20%～40%におよぶことなど、生活・学習習慣に課題がありました。

本校では、これらの課題を解決するため、教師の授業力と生徒の学力を高める取組を進めています。

具体的な取組の一つは研修です。9月27日に、校内研修（授業研究）会を行いました。10月4日には、市内の中学校が一斉に教科別に研究会を行います。11月9日には、教科化される「道徳」の授業研究について校内研修会を予定しています。

生徒の学習習慣定着を図る取組の代表例は、宿題の徹底です。また、希望する生徒が週に2日放課後に残って学習する放課後学習も行っています。教員や地域の方が付き添って指導・監督にあたります。

「聴く・考える・書く」力の伸長を図るため、今年度「校長講話の振り返り」を行っています。全校朝礼での校長の話の聴いた後、話の内容と自分の考えを「振り返りシート」に書く言語活動です。

その他、「数学と英語の少人数授業（県の教員加配による新学習システム）」「朝の学習タイム」「テスト前の学習記録」等、学習の効率的な指導、学習習慣の定着等、学力を高める活動に取り組んでいます。